

佳作

「お母さんめりがとじ」

北海道

天塩町立天塩小学校二年

山田七海

わたしのお母さんは、うそつきです。

「今日は、夕ごはんまでにはかえってくるよ。」「と言ったのに、けっきょくねてからかえってきます。それから、」

「こんどの日曜日には、あそんであげるよ。」「と言ったのに、いじわるに行っていました。

わたしのお母さんは、中学校の先生です。わたしが生まれる前からいらっています。

だからわたしは、0才のときからほいくしゅに行っていました。朝ほいくしゅで、お母さんとはなれるのがとてもかなしかったことを今でもおぼえています。

ある日わたしは、お母さんに

「うそつきをやめて。」「

と、おふろの中で言いました。どうしてわたしがそう言ったかというのを、今までに何回もうそをつかれて、あそんでもらえなかったり、いじわるにいらしてもらえなかったりしてさみしい心でいっぱいになってしまったからです。

お母さんは、かなしいかおで

「お母さん、うそつきをやめたら、なみのすきな本、たくさん買えなくなるけどいいの。」「

と言いました。わたしは、「買えなくなってもいいから、おねがい、やめて。」「と言いました。お母さんは、とてもやさしいかおで、

「わかったよ。」「

と言って頭をなでくれました。

わたしは、その言葉を聞いて、とてもうれしかったけれど、もしかしたら、このやくそくも、うそかもしねないと思っていました。

それからしばらくして、お母さんが本とついでにうそつきをやめることを知りました。わたしは、とてもうれしかったけれど、お母さんは、十一年間まつつけてきた先生のしごとをやめるので、かなしそうでした。

お母さん、このしごとがおわって、かえってきたお母さんは、

「これからは、ずっと一緒だよ。」「

と言ってくれました。

わたしは、この言葉を聞いたとき、

「お母さんのことを、うそつきだと思って、いじめたこと。」「

と、心の中で思いました。

今のお母さんは、

「友だちの家にあそびに行くから、ケーキをやいておいてね。」「

と言ったら、やいておいてくれます。やくそくは、かならず守ってくれます。

お母さんは、大すきなしごとをやめて、さみしいかもしねないけれど、こんどはわたしに、お料理や絵をいっぱいおしえてほしいです。

今、「はなつれしいことは、学校からかえたら、お母さんが家にいてくれることです。」「ありがとうお母さん、大すきだよ。」「